



12月1日の朝、息子の妻が我が家の玄関のドアに、アドベント・リースを作って、飾りつけてくれました。とてもオシャレにアレンジしてくれています。アドベントが始まると思いながらも、飾りつけをする気持ちの余裕が全くありませんでしたので、この可愛らしいリースを見て、元気が湧いてきました。昼間は誰もいないエルミタージュですが、リースはイエス様をお迎えする私たちの思いを込めて、玄関で明るく、メリークリスマス！と呼びかけているようです。

アドベント第一主日の次の日、神戸に住む弟夫婦、沖縄で働いている妹とその夫と、私、5人は、茨城に住む末の妹夫婦のもとに出かけました。2年ぶりに兄弟姉妹が全員一堂に会しました。何とも言えず嬉しいものです。末の妹が3月から病氣療養していました。やっと乗り越えられたので、待ちに待ったお見舞いが可能になったのです。末の妹は突然病を宣告され、厳しい治療を受けました。妹の夫は彼女のシェフになって、食事を用意し、妹を支えてくれました。妹も忍耐して闘病し、この日を迎えることができました。



その午後に彼らは駒込病院まで夫を見舞ってくれました。この日、夫は骨髄穿刺の検査と、抗がん剤注入を受け、すこし不調でしたので、わずかの時間、会っただけでした。兄弟姉妹たちは夫の回復を祈りながら待っていてくれたのです。弟夫婦がポインセチア、末の妹の長女がガラスの星を贈ってくれました。



エルミタージュにみんなでアドベントの用意をしてくれました。アドベント（待降節）は、キリストをお迎えするために準備し、待つ時です。「待つ」と言えば、夫の1回目の一時退院は入院79日目の11月3日でした。この日をどんなに楽しみに待っていたことでしょう。けれども、実際は体力がすり減っていて、ほとんどベッドに横になっていたのです。この時「枕辺



に」と言って、バラのブーケをいただきました。カップ型の可愛いピンクのバラでした。再入院した後、私は「挿し木」を試みました。1か月間、待ちに待って、目下、2本ほどが新芽を出してくれています。本当に嬉しい命の再生です。



先日の骨髄穿刺の結果は、中枢部への転移などは起きていないということで、本当に安心いたしました。骨髄穿刺の検査はこれで終了となりました。夫は今日で、入院して105日目、第4回の抗がん剤を終え、血液検査を待っているところです。体のだるさ、脱力感、疲労感、味覚障害により、食事が喉を通らないなど、訴えます。行くたびに痩せてくる姿に私も胸が痛みます。副作用の厳しさに何とか耐えて、体力を持ちこたえてほしいと願っています。

